

# 発展途上国における乳幼児期の家庭環境に関する分析

—UNICEF MICS 6 のデータより

小 島 梨 沙\*

## Home environment of young children in developing countries:

analysis of MICS 6 data

KOJIMA Risa

### Abstract

The importance of early learning is recognized worldwide today, but many young children in developing countries are reported to be placed in unstimulating home environment. This study therefore aims to analyze home environments in developing countries by age group and country classifications by income level to identify children who are particularly lacking in early learning and stimulation at home. UNICEF's MICS6 data on "learning support," "learning materials," and "inadequate supervision" from 47 countries were analyzed in this study.

The results showed that there were age differences in the home environment. The percentage of children who had support for learning and learning materials at home was lower for younger children. In contrast, the percentage of children left with inadequate supervision was higher for older children. Another important finding is that these age differences vary by income level group. In low-income countries, learning support for younger children was found to be much more limited than in middle-income countries.

These results indicated that in order to bring support on early learning to the most disadvantaged children in developing countries, it is important to analyze the home environment of children in each country by age and to select the countries and the parents and caregivers to be targeted.

Key words : Early Childhood Development, Early learning, Home environment, Developing countries, Multiple Indicator Cluster Surveys (MICS)

### はじめに

子どもの人生において最初の数年は、その後の成長や学習の基盤を築く重要な時期である。発展途上国に対する国際援助においてもその重要性に対する認識は高く、乳幼児への支援は長年行われてきた。近年では乳幼児期の中でも特に最初の3年間（「最初の1,000日」）への注目が高まっており、国際連合児童基金（UNICEF）や世界保健機関（WHO）、世界銀行は2018年に3歳未満児への国際援助に関して「乳幼児の健やかな成長発達のためのケアの枠組み(Nurturing Care Framework for Early Childhood Development)」を発表した。この枠組みでは、分野横断的および包括的な支援の重要性が強調され、支援が必要な5つの分野として、栄養、保健、安全・安心、レスポンス・ケアに加え、「早期学習 (early learning)」を挙げられている。同枠組みでは「早期学習」を、

---

キーワード：ECD、早期学習、家庭環境、発展途上国、複数指標クラスター調査（MICS）

\*平成29年度生 人間発達科学専攻

「乳幼児が環境の中で人、場所、物と相互作用するあらゆる機会を指す」とし、すべての相互作用は子どもの脳の発達に寄与し、その後の学習の基礎を築くものであると強調している (WHO et al., 2018)。国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) も早期学習の重要性を長年訴えてきた。UNESCOの主催で2022年の11月に開催された幼児教育・保育世界会議 (World Conference on Early Childhood Care and Education 2022) でも、質の高い乳幼児教育・保育を全ての子どもたちに確保することの重要性が改めて確認された。同会議の最終日にはタシュケント宣言が出され、「学習は出生から始まるものである」ということ、および「3歳未満児の学習支援の重要性」が強調された。

このような3歳未満児への早期学習は、親や養育者が主要な提供者であり、重要な存在であるということが先行研究で示されている (Britto, et al., 2017; Engle, 2011)。先述の「乳幼児の健やかな成長発達のためのケアの枠組み」でも、早期学習は親や養育者による「レスポンス・ケア (Responsive caregiving)」と強く結びついていると説明されている。同枠組みでは、レスポンス・ケアは、「子どものシグナルに気づき、理解し、適時適切に対応すること」とされ、他の4つの分野での支援を支える基盤になると説明されている。しかし、発展途上国の多くの5歳未満の子どもは、家庭において十分な早期学習や刺激を受けていないと報告されている (Grantham-McGregor et al., 2007)。

ところで、発展途上国の家庭における早期学習およびレスポンス・ケアについては、UNICEFの「複数指標クラスター調査 (Multiple Indicator Cluster Survey: MICS)」やアメリカ合衆国国際開発庁 (United States Agency for International Development: USAID) が支援している「人口動態保健調査 (Demographic Health Survey: DHS)」に関連する指標が含まれている。これらのデータを用いた先行研究は、適切な早期学習やレスポンス・ケアを受けている3～4歳の子どもの割合と国の所得レベルの関連や、5歳未満児がいる家庭における子ども向けの本や玩具の所有率とGDPの関連を分析している (Bradley and Putnick, 2012; Lu et al., 2020)。

しかし、これらのデータを年齢別に分析した研究は乏しい。また、MICSの「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」の質問は、長年3～4歳児が対象であったが、2017年開始のMICS 6から多くの国で2歳児も対象に含まれるようになった。しかし、その2歳児を含むデータを分析した研究は乏しいのが現状である。そこで本研究では、MICS 6の早期学習およびレスポンス・ケアに関するデータを用い2～4歳の年齢別に分析を行う。さらに、以前より0～4歳を対象に行われている「家庭における本および玩具」および「適切な安全監督を欠く子ども」のデータも年齢別に分析を行い、発展途上国の家庭における早期学習やレスポンス・ケアに関する状況について詳しく分析を行う。一口に発展途上国といっても、国の経済水準によって状況が異なると考えられるため、先行研究 (Lu et al., 2020) に倣い、本研究では国の所得レベル別の分析も行う。これらの分析を通じて、本論文は家庭において早期学習およびレスポンス・ケアを享受できている (またはできていない) 発展途上国の子どもの状況を明らかにすることによって、乳幼児への早期学習に関する国際援助を検討するための基礎資料を提供することを目的とする。

## 1. 乳幼児期の発達と家庭環境

人は生後数年間、その後の人生のどの時期にも見られない速度で心身のあらゆる領域が急速に発達し、この時期の発達はその後成長の基盤となる (WHO et al., 2018)。特に最初の3年間の脳の発達は最も活発であり、その成長速度は著しい。生後1年間で脳の重量は2倍以上となり、6歳頃までには脳の容積は成人の約9割に達するとされている (Dekaban, 1978)。こうした脳の発達は、子どもを取り巻く環境によって大きく左右される。栄養や鉄分の不足、環境有害物質、ストレスに加え、周囲の環境からの刺激や社会的相互作用の不足は脳の構造と機能に影響を与え、認知および情緒の発達にも長期的な影響を与えることが先行研究によって示されている (Grantham-McGregor et al., 2007)。この時期の適切な刺激や早期学習は、脳の神経ネットワーク構築や脳の構造の基盤形成にとってきわめて重要であり (Walker et al., 2007; 野澤, 2016)、その後の学業成績や所得、社会福祉等に対する効果があることも確認されている (Schweinhart et al., 2005)。こうした効果から、乳幼児教育への投資は他のレベルの教育に比べ収益率が高いことが示されている (Heckman et al., 2009)。さらに、早期学習の効果は社会的に不利な状況にある子どもほど高いこと (OECD, 2018) や、低年齢で不利な立場にある子ども

を対象とした介入は効果が高いこと (Engle et al., 2007) も先行研究では明らかにされている。

乳幼児期に適切な刺激や早期学習を享受するためには、親や養育者の存在が重要である。家庭において親や養育者が子どもに話しかけたり遊びを促したりするなどの働きかけを行うことは、子どもの健全な発達を促す (Britto et al., 2017; Engle, 2011; Landry et al., 2006)。こうした効果は地域や文化に関わらず確認されている (Hentschel et al., 2021)。1日のうち、乳児保育に長時間参加をする子どもの場合は、保育士など親以外の存在も重要である (Cadima et al., 2020; Daly, 2016) が、発展途上国 (低所得国・中所得国) では乳児保育サービスを利用している3歳未満児は限られているため (UNESCO, 2020)、親や養育者の存在が特に重要である。

また、子ども向けの本や玩具などの学習教材へのアクセスは子どもの能力や学業の達成度と関連があることも先行研究では示されている (Lu et al., 2020)。

発展途上国における家庭での親による働きかけや、家庭にある本や玩具を含む家庭環境に関する研究からは、次のことが明らかになっている。発展途上国の5歳未満の子どもの多くは、刺激の少ない家庭環境に置かれており、そのことは子どもの認知、運動、社会・情緒の発達に悪影響を与えている (Grantham-McGregor et al., 2007)。家庭内での刺激への曝露は、子どもの身長や栄養状態などにも関連している (Lu et al., 2020)。2010～2018年に実施されたMICSのデータを分析した研究は、発展途上国の3～4歳の子どものうち69%が適切と定義されるレベルの早期学習やレスポンス・ケアを家庭で受けていることと、国の所得レベルによってその割合が異なることを報告している (Lu et al., 2020)。5歳未満児の家庭にある子ども向けの本や玩具に関する研究は、子ども向けの本および店で買った玩具 (既製品) がある割合は、GDPと関連していることを示している (Bradley and Putnick, 2012)。

## 2. 研究方法

本研究では、2017～2023年に実施されたMICS 6のEarly Childhood Development (ECD) 指標のうち、家庭環境に関するデータを分析する。MICSのホームページで公開されているデータセットを用いて分析を行った。MICSとは、UNICEFが1990年代半ばに開始し、これまで120ヶ国において子どもと女性のウェルビーイングに関するデータを収集している調査である。調査結果を子どもや女性の生活向上のための政策立案に役立てることを目的として実施されている。

本研究では、多くの国において「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」の調査対象に2歳の子どもの含まれていること、および多くの国で完了している最新の調査であることから、MICS 6のデータを用いる。2023年7月時点で結果が公表されている50ヶ国のうち、「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」に2歳児のデータを含んでいる47ヶ国 (53の国および地域のデータ)<sup>1</sup>を分析対象とする。なお、質問によってはデータが存在しない国もあるため、観測数 (国や地域の数) は質問によって異なる。このデータを、年齢および世界銀行による所得水準別分類<sup>2</sup>に基づき、低所得国、下位中所得国、上位中所得国のグループごとに平均値を算出し比較した。

本研究で用いるMICS 6の家庭における早期学習およびレスポンス・ケアに関する質問は、次の3つのカテゴリーに分かれている。

1. 大人による早期学習支援とレスポンス・ケア
2. 家庭にある学習教材 (子ども向けの本および玩具)
3. 適切な安全監督

まず、カテゴリー1の「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」については、以下の3つのデータを分析する。

- i. 大人による早期学習支援とレスポンス・ケア—生後24～59カ月の子どもに対し、学習意欲を喚起し就学準備を促すために、過去3日間に大人が以下のことを4項目以上行った割合：a) 子どもに本を読んで聞かせる、b) 子どもに物語を語って聞かせる、c) 子どもに歌を歌って聞かせる、d) 子どもを連れて外出する、e) 子どもと遊ぶ、f) 物の名前や数え方を教えるまたは絵を描いて子どもと時間を過ごす。
- ii. 大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの項目数。

iii. 大人による早期学習支援とレスポンス・ケアを何も受けていない子どもの割合

次に、カテゴリ 2「家庭における本および玩具」については、次のデータを分析対象とする。この質問の対象は生後 0～59カ月の子どもとなっている。

- i. 家庭にある学習教材（子ども向けの本）：自宅にある、絵本や児童書などの子ども向けの本の冊数。
- ii. 家庭にある学習教材（玩具）：自宅にある次のそれぞれの玩具で遊んだ割合。①自宅で作った玩具、②店で買った玩具（既製品）、③家庭内にある物品または屋外にある物（棒、石、動物、貝殻、葉っぱなど）。

家庭にある子ども向けの本の冊数に関しては、本研究ではMICSの国別レポートに倣い「3冊以上ある」および「10冊以上ある」という分類で分析を行う。玩具に関しては上述の3種類の玩具に関する質問に加え、「これらのうち2種類以上の玩具で遊ぶ割合」という分析もMICSの国別レポートに倣って行う。

3つ目のカテゴリである「適切な安全監督」については、生後 0～59カ月の子どもを対象とした、次のデータを分析する。

- i. 過去 1 週間に 1 回以上の頻度で、1 時間を超えて 1 人で置かれた割合。
- ii. 過去 1 週間に 1 回以上の頻度で、1 時間を超えて 10 歳未満の別の子どもが面倒を見た割合。

なお、これらの質問では、回答者（親／養育者）は 1 人の子どものみについて回答している。複数の子どもの持つ回答者は、最も若い子どもに関する回答を行った。

### 3. 結果

表 1 はカテゴリ 1 の「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」に関するデータの平均値を、子どもの年齢および国の所得レベル別に示している。

まず、「大人による早期学習支援とレスポンス・ケアが 4 項目以上行われた割合」のデータを見ると、全体平均は約 6 割である（2 歳児 58.2%、3 歳児 61%、4 歳児 61%）。国の所得レベル別では、上位中所得国（22 か国）では年齢による差がほとんどないが、低所得国（10 か国）および下位中所得国（21 か国）では 2 歳と 3～4 歳の間に 4 ポイント以上の差がある。

次に、「大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの項目数」については、質問された 6 項目中の全体平均値は次の通りとなっている：2 歳児 3.7 項目、3 歳児 3.9 項目、4 歳児 3.9 項目。質問 1 と同様に、低所得国と下位中所得国では、働きかけの項目数は 2 歳児が他の年齢よりも少ない。

それから、「(質問にある 6 項目のうち) 働きかけが何も行われていない」子どもの割合の全体平均は、2 歳児 12.6%、3 歳児 8.4%、4 歳児 9.1%であった。低所得国および下位中所得国では質問の 6 項目中いずれの働きかけも受けていない子どもの割合は 2 歳児が最も多いことと、低所得国では 2 歳児と 3～4 歳児における割合との差が特に大きいことが示されている。

表 1 大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの平均値

	観測数	大人による早期学習支援とレスポンス・ケアが 4 項目以上行われた割合			大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの項目数 (0～6 項目)			大人による早期学習支援とレスポンス・ケアが何も行われていない割合		
		2 歳	3 歳	4 歳	2 歳	3 歳	4 歳	2 歳	3 歳	4 歳
全体	53	58.2	61.0	61.0	3.7	3.9	3.9	12.6	8.4	9.1
低所得国	10	34.4	39.7	40.4	2.4	2.8	2.8	31.4	17.9	19.0
下位中所得国	21	51.3	55.5	56.0	3.4	3.6	3.7	14.2	10.0	11.1
上位中所得国	22	75.6	75.8	75.2	4.6	4.6	4.6	2.6	2.5	2.7

国の所得レベル別に見た傾向は先述のとおりであるが、国別にデータを見ると、同じ所得レベルに含まれる国の間にばらつきがあることには注意が必要である。たとえば、図 1、2 が示すように、「家庭の大人による早期学習支援とレスポンス・ケアを 4 項目以上受けている子どもの割合」において、低所得国の中でもシエラレオ

ネは2歳児が0.0%、4歳児が29.8%であるが、アフガニスタンでは2歳児が32.4%、4歳児は28.5%となっており、前述の低所得全体の傾向がアフガニスタンでは見られない。このような例外が一部あることには注意したい。

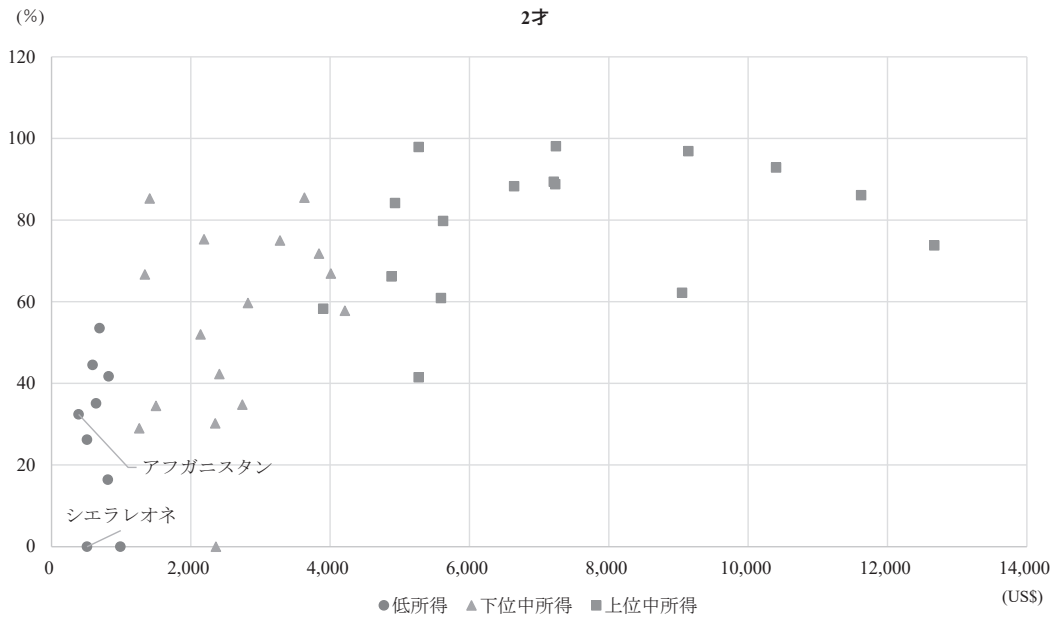


図1 大人による早期学習支援とレスポンス・ケアが4項目以上行われた割合と1人当たりのGNIの散布図（2歳）

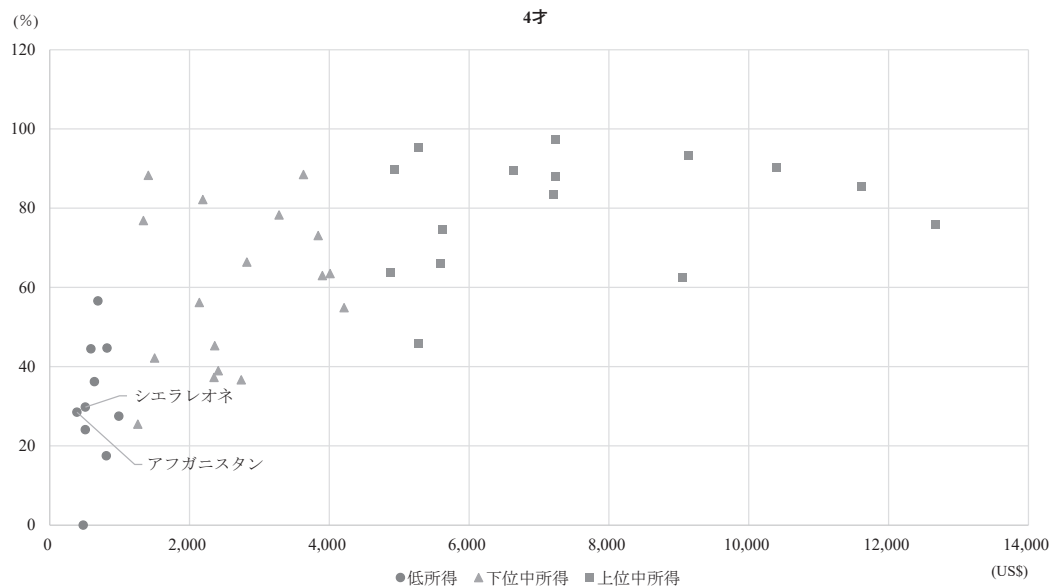


図2 大人による早期学習支援とレスポンス・ケアが4項目以上行われた割合と1人当たりのGNIの散布図（4歳）

カテゴリー2「家庭における本および玩具」については、まず子ども向けの本について結果を確認しよう（表2）。家庭に子ども向けの本が3冊以上ある割合の全体平均は、0歳児3%、1歳児6.7%、2歳児9.6%、3歳児12.3%、4歳児13.6%である。10冊以上になるとその割合は下がり、0歳児2.6%、1歳児5.7%、2歳児7.7%、3歳児9.3%、4歳児10.7%である。全ての国の所得レベルにおいて、3冊および10冊以上の本がある家庭は0歳児が最も少ない。そして、子どもの年齢が上がるにつれて、家庭に子ども用の本が3冊および10冊以上ある割合が

増えており、全て国の所得レベルで4歳児の割合が最も多くなっている<sup>3</sup>。0歳と4歳の割合（3冊以上および10冊以上）差をみてみると、その差は上位中所得国よりも低所得国および下位中所得国において大きい。

表2 子ども用の本が3冊以上ある家庭の割合の平均値

	観測数	3冊以上ある割合					10冊以上ある割合				
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
全体	53	3.0	6.7	9.6	12.3	13.6	2.6	5.7	7.7	9.3	10.7
低所得国	10	0.1	0.3	0.6	0.8	1.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2
下位中所得国	21	0.7	2.6	5.1	8.1	10.7	0.5	1.1	1.7	2.8	3.6
上位中所得国	22	6.5	13.6	18.0	21.5	21.9	5.8	12.7	16.9	19.7	22.3

次に、玩具については、①自宅で作った玩具、②店で買った玩具（既製品）、③家庭内にある物品または屋外にある物（棒、石、動物、貝殻、葉っぱなど）の種類毎の分析と、この3つのうち2種類以上の玩具で遊ぶ子どもの割合について分析を行う。

まず、①自宅で作った玩具で遊ぶ子どもの割合の全体平均は、0歳児17%、1歳児36.9%、2歳児41.7%、3歳児43.1%、4歳児44%である（表3）。全体的に年齢が上がるにつれて自宅で作った玩具で遊ぶ子どもの割合が高くなる。全ての国の所得レベルにおいて、最もその割合が低いのが0歳であり、最も高い割合は4歳となっている。

次に、②店で買った玩具（既製品）で遊ぶ子どもの割合の全体平均は、0歳児46%、1歳児72.4%、2歳児74.4%、3歳児74.5%、4歳児73.9%である（表3）。全体的に1歳以上の子どもが店で買った玩具で遊ぶ割合が高いことが示された。この項目についても、0歳において全ての国の所得レベルで最も低い割合となっている。最もその割合が高いのは、上位中所得国で3歳、低所得国および下位中所得国で2歳である。

そして、③家庭内にある物品または屋外にある物で遊ぶ子どもの割合の全体平均は、0歳児23.6%、1歳児69.4%、2歳児74.3%、3歳児74.5%、4歳児73.7%である（表4）。②と同様に、家庭内にある物品または屋外にある物で遊ぶ子どもの割合は1歳以上で高くなる。最も高い割合は、上位中所得国で2歳、下位中所得国で3歳、低所得国で4歳である。

最後に、上記3種類の玩具のうち、2種類以上の玩具で遊ぶ子どもの割合をみてみると、全体平均は、0歳児24.8%、1歳児63.9%、2歳児69.2%、3歳児69.3%、4歳児68.5%である（表4）。最もその割合が低いのは、全ての国の所得レベルにおいて0歳である。最も大きい割合は、低所得国および下位中所得国で3歳、上位中所得国で2歳である。

家庭における本および玩具のデータを個々の国について見ていくと、ほとんど全ての国で上述の傾向が見られるが、一部例外も存在することには注意が必要である。紙幅の制約によりここでは一部の図を示すにとどめるが、図3が一例である。これを見ると、たとえば、2種類以上の玩具で遊ぶ子どもの割合のデータでは、低所得国よりも低い割合を示す下位中所得国はいくつか存在することがわかる（図3）。

表3 自宅で作った玩具と店で買った玩具で遊ぶ割合の平均値

	観測数	自宅で作った玩具					店で買った玩具（既製品）				
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
全体	53	17.0	36.9	41.7	43.1	44.0	46.0	72.4	74.4	74.5	73.9
低所得国	10	17.6	39.2	45.7	47.3	48.3	18.7	35.4	38.4	38.3	37.9
下位中所得国	21	16.0	38.2	43.2	45.0	46.2	38.2	67.7	70.4	70.3	69.7
上位中所得国	22	17.6	34.6	38.3	39.5	40.0	65.7	93.6	94.7	94.9	94.4

表4 家庭内にある物品または屋外にある物と2種類以上の玩具で遊ぶ割合の平均値

	観測数	家庭内にある物品または屋外にある物					左記の3つのうち2種類以上の玩具				
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
全体	53	23.6	69.4	74.3	74.5	73.7	24.8	63.9	69.2	69.3	68.5
低所得国	10	29.3	74.9	80.3	82.1	82.2	18.3	45.3	52.0	53.8	53.5
下位中所得国	21	22.1	65.4	70.7	72.0	71.2	22.0	60.3	65.8	66.7	66.3
上位中所得国	22	22.6	70.7	74.9	73.5	72.3	30.4	75.7	80.2	79.0	77.5

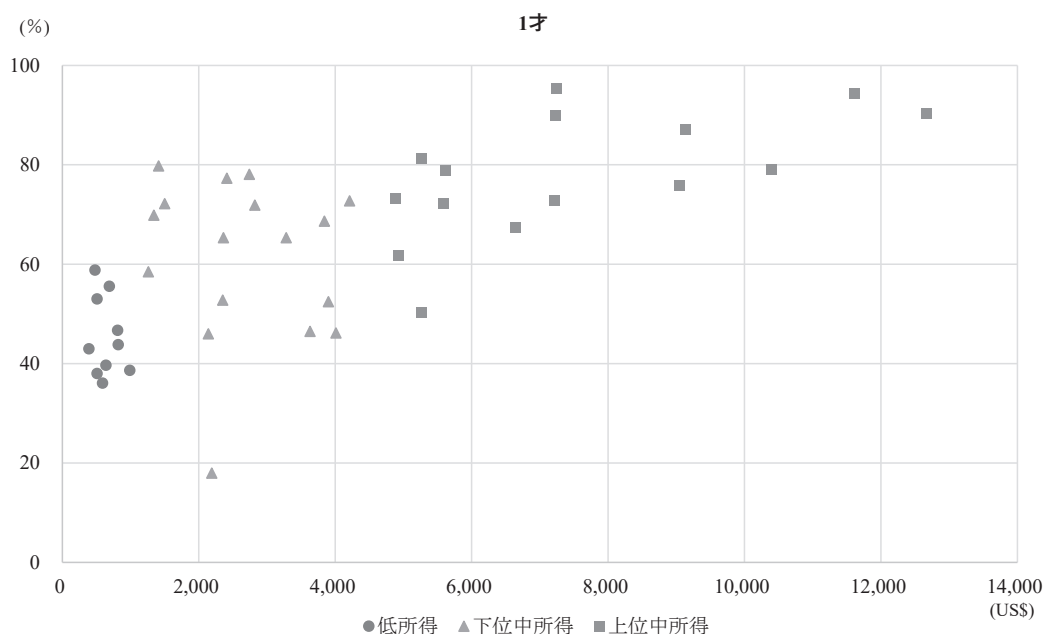


図3 2種類以上の玩具で遊ぶ子どもの割合割合と1人当たりのGNIの散佈図（1歳）

次に、3つめのカテゴリーである「適切な安全監督」について、週1回以上の頻度で1時間を超えて「1人で置かれた割合」および「10歳未満の別の子どもが面倒を見た割合」を表5に示す。それぞれの全体平均は、前者が0歳児5.7%、1歳児9.4%、2歳児11.3%、3歳児13.1%、4歳児14.6%、後者が0歳児6.5%、1歳児11.2%、2歳児13.6%、3歳児14.5%、4歳児15.3%である。子どもの年齢が上がるにつれてどちらの割合も高くなっている。

週1回以上の頻度で1時間を超えて「1人で置かれた割合」では、全ての国の所得レベルで4歳児の割合が最も高い。週1回以上の頻度で1時間を超えて「10歳未満の別の子どもが面倒を見た割合」でも、最も高い割合は、全ての国の所得レベルにおいて4歳児となっている。どちらの質問でも最も割合が低いのは0歳児であり、ほぼ全ての国において年齢が低いほど適切な安全監督を欠く子どもの割合が少ないことが示されている。ただし、他のカテゴリーのデータと同じく、同じ所得レベルに含まれていても、国間で異なる状況が見られることには注意が必要である。図表の掲載は省略するが、たとえば、週1回以上の頻度で1時間を超えて「1人で置かれた割合」において、下位中所得国のナイジェリアでは最も低いのは0歳児（10.3%）、最も高いのは4歳児で（39.4%）他の多くの国と同じ傾向が見られるのに対し、同じく下位中所得国のホンジュラスでは0歳児が最も高く（3.8%）、4歳児が最も低く（2.9%）になっている。

表5 適切な安全監督を欠く子どもの割合4の平均値

	観測数	1人で置かれた割合					10歳未満の別の子どもが面倒を見た割合				
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
全体	53	5.7	9.4	11.3	13.1	14.6	6.5	11.2	13.6	14.5	15.3
低所得国	10	12.4	22.8	29.5	33.5	36.4	15.5	28.6	32.7	35.6	36.9
下位中所得国	21	6.8	9.6	11.4	13.0	15.1	6.6	11.2	13.5	14.2	15.0
上位中所得国	22	1.7	3.0	3.1	3.8	4.3	2.6	4.2	5.0	5.1	5.8

### 考察

本研究は、MICSの「大人による早期学習支援とレスポンス・ケア」の質問に関するデータを用い、発展途上国の家庭における大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの状況を年齢別に分析することを目的として実施した。さらに、国の所得レベル別の分析も行った。

この目的に対し、発展途上国の家庭における大人による早期学習支援とレスポンス・ケアの状況は、年齢による差があることが本研究の主要な知見として示された。そして、そのような年齢による差は、特に所得レベルが低い国で顕著であることも示された。まず、本研究で分析したデータからは、発展途上国の家庭において早期学習やレスポンス・ケアを享受している子どもは全体的に限られていることが明らかになった。また、家庭において大人による早期学習支援とレスポンス・ケアを受けている割合と、子ども用の本と玩具がある家庭の割合は年少の子どものほうが低く、適切な安全監督を欠く割合は年長の子どものほうが高いことも示された。次に、先行研究では示されていなかった年齢による差について詳しく見ていこう。大人による早期学習支援とレスポンス・ケアに関する3つの質問のデータは、2歳児への働きかけが最も限られていることを示した。6項目中4項目以上の働きかけを受けている割合と働きかけの種類が最も少なく、6項目中いずれの働きかけも受けていない子どもの割合が最も多いのは2歳児であった。特に、低所得国および下位中所得国では、2歳児と3～4歳児の割合の差が大きい。そして、家庭に子ども用の本がある家庭の割合および3種類の玩具で遊ぶ割合では、全ての国の所得レベルにおいて0歳児が最も低いことが示された。また、ほぼ全ての国の所得レベルにおいて、1歳を境にその割合が増えることが共通していた。それから、適切な安全監督を欠く子どもの割合は、週1回以上の頻度で1時間を超えて「1人で置かれた割合」および「10歳未満の別の子どもが面倒を見た割合」のどちらの質問でも、子どもの年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。最も割合が低いのは、ほとんど全ての国の所得レベルでも0歳児であり、年齢が低いほど適切な安全監督を欠く子どもの割合が少ないことが示された。

MICSのデータを用いた先行研究では、発展途上国では3～4歳児に対する大人による早期学習支援とレスポンス・ケアは限られていることや、それは特に所得の低い国で限定的であることが示されている。しかし、大人による早期学習支援とレスポンス・ケアに関する3つの質問に2歳の子どものデータを含み、年齢による分析を行っているものは見当たらない。したがって、2歳児のデータを分析対象に含み、年齢別に分析を行った本研究は、年齢による差があることを新たに提示することができた。

本研究の分析結果にはいくつかの説明が考えられる。まず、大人による早期学習支援とレスポンス・ケアに関して、2歳の子どもの働きかけが最も少なかった理由を検討したい。特に、「大人による早期学習支援とレスポンス・ケアを（質問の6項目のうち）何も受けていない割合」に注目したい。この質問の6項目は、さまざまな地域の文化を考慮して作成されていることから（Hentschel et al., 2021）、6項目のうち何も行われなというケースは、早期学習およびレスポンス・ケアという観点から見ると問題をはらむ可能性が高い。こうしたことから、ここではこの質問項目に特に焦点を当てて考察を行いたい。「6項目のうち何も行われな」割合は、全体でみると平均値は2歳児で最も高い。低所得国の2歳児の割合が特に高く、2歳と3～4歳との間に存在する差も他の所得レベルの国よりも大きい。この背景の1つに、年少の子どものは年長の子どものに比べ、1人にされたり、他の子どもによって面倒を見られたりすることが多く、大人と過ごす時間が短いということが考えられる。しかし、本研究の分析結果では、大人による適切な安全監督を欠く子どもの割合は、3～4歳より2歳の割合の



ほうが低いことが示された。即ち、3～4歳に比べて、2歳児は大人と一緒に居る割合が高いにも関わらず、大人による働きかけを受けている割合が低いことを示唆している。この理由の1つに、年少の子どもへ働きかけの重要性が親や養育者に理解されていないことが考えられる。発展途上国の世帯調査データを用いて乳幼児プログラムへの参加の要因を分析した研究では、多くの国で参加の規定要因の1つに子どもの年齢があることが示されており、親や養育者は子どもの年齢が幼いほどそうしたプログラムの必要性を感じていないことが示唆されている(浜野・三輪, 2012)。子ども向けの本や玩具も同様に、年齢が高い子どもほど多く持つということは、親や養育者が子どもの成長に従ってその必要性を認識した結果なのかもしれない。なお、国の所得レベル別にみると、0歳と4歳の子ども向けの本の所有率および玩具で遊ぶ割合の差は、低所得国および下位中所得国において特に大きいことが本研究では示された。このように、国の所得レベルによって差の大きさが異なることには注意を払う必要があるだろう。また、安全監督を欠く子どもの割合については、幼い子どもほど大人によるケアが必要であることから、年齢が高いほどその割合が高くなっていると考えられる。

## おわりに

本研究では、発展途上国の多くの国において同じ質問を行うという数少ない調査であるMICSのデータを用いて乳幼児の発達を支える家庭環境について分析した。その結果、乳幼児の発達を支える家庭環境は年齢による差があることが示された。大人による適切な安全監督を欠く割合は年少の子どもにおいて低いにも関わらず、大人による早期学習支援とレスポンス・ケアを受けている割合も年少の子どものほうが低かった。そして、そのような年齢による差は国の所得レベルによって異なり、国の所得レベルが低いほど、家庭における働きかけが年少の子どもに対して限られている可能性が示唆された。

近年、国際援助において「最初の1,000日」に対する包括的な支援の重要性への認識が高まっており、UNICEF等の国際機関は、これまで3歳未満児への支援の柱としてきた保健や栄養以外の分野への取り組みも強化することを表明している。たとえばUNICEFは、家庭における早期学習やレスポンス・ケアを促進するために、乳幼児の親や養育者にそれらに関する知識や技術を提供するペアレンティング・プログラムを多くの発展途上国で実施している(UNICEF, 2021)。今後こうしたプログラムが実施および拡大されていく際に、より不利な状況に置かれた子どもにプログラムの利益が届くように、それぞれの国・地域の子どもの家庭環境を年齢別に分析した上で対象国や対象者(親や養育者)を選定することが重要であると考えられる。本研究で示されたように、年少の子どもほど家庭における働きかけが少ない状況は、多くの発展途上国で見られる可能性がある。本研究で使用したデータや分析方法に関する検討は必要であるが、本研究は今後の発展途上国における乳幼児支援の検討に寄与するものである。

## 【註】

- 1 本研究の分析対象国は次の通りである。  
低所得国：アフガニスタン、中央アフリカ、チャド、コンゴ民主共和国、ガンビア、ギニアビサウ、朝鮮民主主義人民共和国、マダガスカル、馬拉ウイ、シエラレオネ、トーゴ  
下位中所得国：アルジェリア、バングラデシュ、ガーナ、ホンジュラス、キリバス、キルギス、ラオス、レソト、モンゴル、ネパール、ナイジェリア、パキスタン(4地域)、サモア、サントメ・プリンシペ、チュニジア、ウズベキスタン、ベトナム、ジンバブエ  
上位中所得国：アルゼンチン、ベラルーシ、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、フィジー、ジョージア、イラク、コソボ(2地域)、モンテネグロ(2地域)、北マケドニア(2地域)、セルビア(2地域)、パレスチナ暫定自治政府、スリナム、タイ、トンガ、トルクメニスタン、ツバル
- 2 世界銀行の国の所得レベルの分類による。<https://datahelpdesk.worldbank.org/knowledgebase/articles/906519-world-bank-country-and-lending-groups> [accessed September 1, 2023]
- 3 表2の「10冊以上ある割合」で低所得国の1～3歳は0.1%と同じ数値になっているが、小数点第2位以下は、1歳：0.091、2歳：0.119、3歳：0.137となっている。
- 4 0歳および1歳の「10歳未満の別の子どもが面倒を見た割合」は、9か国のみのデータから算出した。

## 【参考文献】

- Iftakhar, M, Alam., Mohaimen, Mansur., and Prianka, Barman. (2022) "Early Childhood Development in Bangladesh and Its Socio-Demographic Determinants of Importance", *Early Child Development and Care*, v192 n12 p1901-1920.
- Bradley, R. H. and Putnick, D. L. (2012) "Housing quality and access to material and learning resources within the home environment in developing countries" *Child Development*, Jan-Feb; 83(1): 76-91.
- Britto, R, Pia., Lye, J, Stephen., Proulx, Kerrie., Yousafzai, K, Aisha., Matthews, G, Stephen., Vaivada, Tyler et al. (2017) "Nurturing care: promoting early childhood development", *Lancet*, 389 (10064): 91-102.
- Cadima, J., Nata, G., Barros, S., Coelho, V., and Barata, C. (2020) "Literature review on early childhood education and care for children under the age of 3", OECD Education Working Papers, No. 243, OECD Publishing, Paris.
- Daly, M., Bruckhauf, Z., Byrne, j., Pecnik, N., Samms-Vaughan, M., Bray, R., and Margaria, A. (2015) "Family and Parenting Support: Policy and Provision in a Global Context, Innocenti Insight", UNICEF Office of Research, Florence.
- Dekaban, A. S. (1978) "Changes in brain weights during the span of human life: relation of brain weights to body heights and body weights", *Annals of Neurology*, Oct; 4(4): 345-56.
- Engle, P. L., Fernald, L.C., Alderman, H., Behrman, J., O'Gara, C., Yousafzai, A., de Mello MC, Hidrobo, M., Ulkuer, N, Ertem, I, Iltus, S., and Global Child Development Steering Group (2011) "Strategies for Reducing Inequalities and Improving Developmental Outcomes for Young Children in Low-Income and Middle-Income Countries." *Lancet*, vol. 378 (9799): 1339-1353.
- Engle, P. L., Black, M., Behrman, J., Cabral de Mello, M., Gertler, Kapiriri, L., Martorell, R., Young, M. (2007) "Strategies to avoid the loss of developmental potential in more than 200 million children in the developing world", *Lancet*, Vol. 369, pp.229-242.
- Grantham-McGregor, S., Cheung, Y., Cueto, S., Glewwe, P., Richter, L., and Strupp, B. (2007) "Developmental potential in the first 5 years for children in developing countries", *Lancet*, Vol.369, Issue 9555, pp. 60-70.
- 浜野隆・三輪千明 (2012) 『発展途上国の保育と国際協力』 東信堂
- Heckman, J. et al. (2009) "The Rate of Return to the High/Scope Perry Preschool Program", Working Paper No.15471, National Bureau of Economic Research.
- Hentschel, E., Yousafzai, A., and Aboud, F.E. (2021) "The Nurturing Care Framework: Indicators for Measuring Responsive Care and Early Learning Activities", Geneva: World Health Organization.
- Landry, S. H., Smith, K., and Swank, P. (2006) "Responsive Parenting: Establishing Early Foundations for Social, Communication, and Independent Problem-Solving Skills", *Developmental Psychology*, Vol. 42, No. 4, 627-642. WHO.
- Lu, C., Cuartas, J., Fink, G., McCoy, D., Liu, K., Li, Z., Daelmans, B., and Richter, L. (2020) "Inequalities in early childhood care and development in low/middle-income countries: 2010-2018", *BMJ Glob Health*, Feb 4; 5(2): e002314.
- Grantham-McGregor, S. et al. (2007) "Developmental potential in the first 5 years for children in developing countries", *Lancet*, Vol.369, Issue 9555, pp. 60-70.
- 野澤祥子・淀川裕美・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美 (2016) 「乳児保育の質に関する研究の動向と展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第56巻, pp.399-418.
- OECD (2018) *Engaging Young Children: Lessons from Research about Quality in Early Childhood Education and Care*, OECD Publishing, Paris.
- Schweinhart, L.J. et al. (2005) *Lifetime Effects: The High/Scope Perry Preschool Study Through Age 40*, Monographs of the High/Scope Educational Research, Foundation No 14., High Scope Press, Ypsilanti.
- UNESCO (2020) *Inclusion and education: ALL MEANS ALL Education for All Global Monitoring Report 2020*, UNESCO Paris
- UNICEF (2021) *UNICEF'S Vision For Elevating Parenting: A Strategic Note*, UNICEF, New York
- UNICEF MICS <https://mics.unicef.org/surveys> [accessed August 26, 2023]
- Walker, S.P., et al. (2007) "Child development: risk factors for adverse outcomes in developing countries", *Lancet*, Vol.369, Issue 9556, pp.145-57.
- WHO, UNICEF, and World Bank Group (2018) *Nurturing care for early childhood development: a framework for helping children survive and thrive to transform health and human potential*, WHO, Geneva.